

「キャンドルのつどい」マニュアル

1 各種役割分担

係名	人数	役割内容	備考
火の神	1	○ 聖火の受取・分火 ○ 火の神の言葉（第1・3部）	・団体代表者もしくはそれに代わる人
火のみこ	1	○ 聖火の搬入・献上（第1部） ○ 聖火の搬出（第3部）	
火の子	4～5	○ 聖火の受取・分火（第1部）	・学校の場合は1クラス1名程度
誓詞係	1	○ 誓いの言葉の発表（第1部）	
感想係	1	○ 感想発表（第3部）	
司会者	1～2	○ 司会進行（第1・3部）	
放送係	1～2	○ BGM機器の操作（第1・3部）	・司会者が兼任することも可能
会場係	5～6	○ 会場の準備・片付け（事前・事後）	

※ 各係の人数は、団体規模等により適宜設定してください。

2 活動の流れ

(1) 事前準備

- ① 各係員・団体担当者会場集合（つどい開始30～40分前）
- ② 会場係による会場準備（「会場準備図」参照）
- ③ 各係による実際の流れに沿ったリハーサル

(2) 参加者入場準備

- ① 体育館渡り廊下に入場隊形で整列・待機
- ② 事前準備完了次第入場（入口で「キャンドル」と「ロウ受け」を配付）

(3) つどい開始

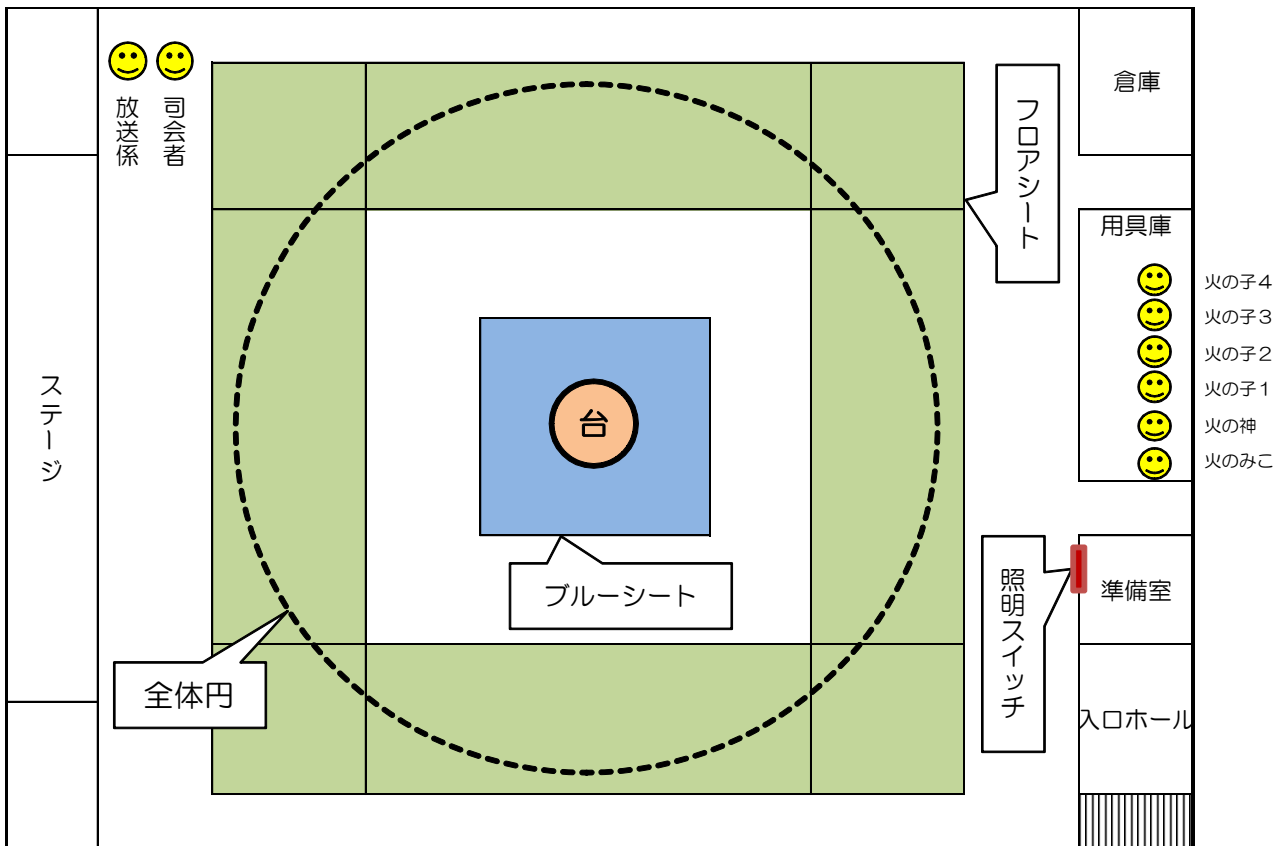
- ① 第1部：迎え火のセレモニー
- ② 第2部：交歓のつどい（クラス発表、レクリエーション等）
- ③ 第3部：送り火のセレモニー（省略可）

(4) つどい終了

- ① 参加者退場
- ② 係員による物品（キャンドル台、シート類、衣装、キャンドル、ロウ受け等）の片づけと会場清掃

3 キャンドルのつどい進行例

第1部：迎え火



〔図1〕

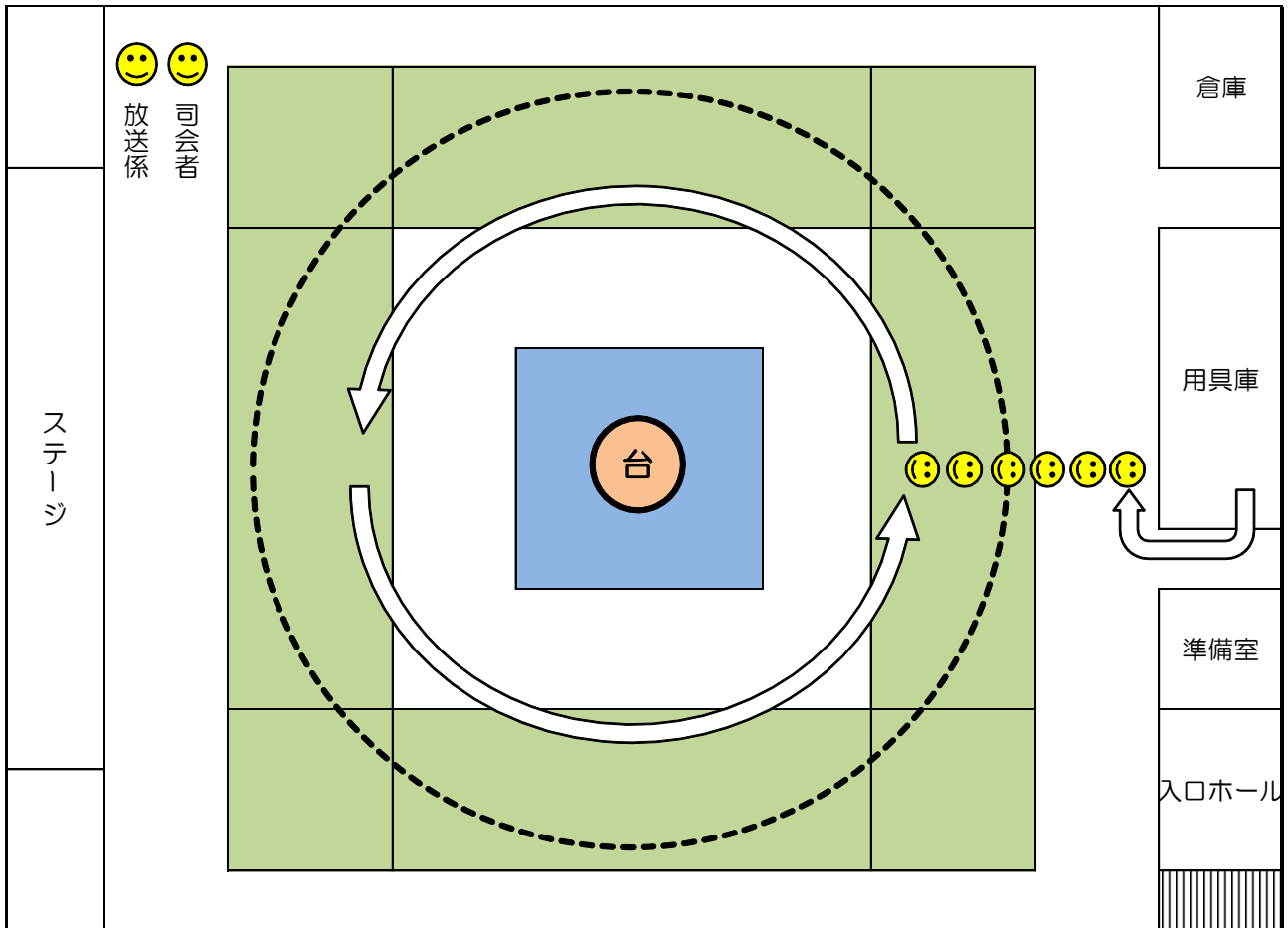
- 参加者入場の際は、**白熱灯のみ点灯**。
- 火のみこ、火の神、火の子は衣装を着けてキャンドル（大）を持ち、用具庫内で待機。（**火のみこのキャンドルにだけ火**を灯しておく）
- 参加者はキャンドル（小）を持ち、キャンドル台を囲んで円陣になる。
- 〔図1〕の隊形に整列を完了した段階で、照明 OFF。

司会者… 〇月〇日、夕日もしずみ、ここ九重青少年の家にも夜のとばりがおりはじめました。
友情と信頼のきずなを確かめあうために、ここに集まった〇〇〇のみなさん、今からキャンドルのつどいをはじめます。
まもなく、聖火の入場です。静かに聖火を迎えましょう。

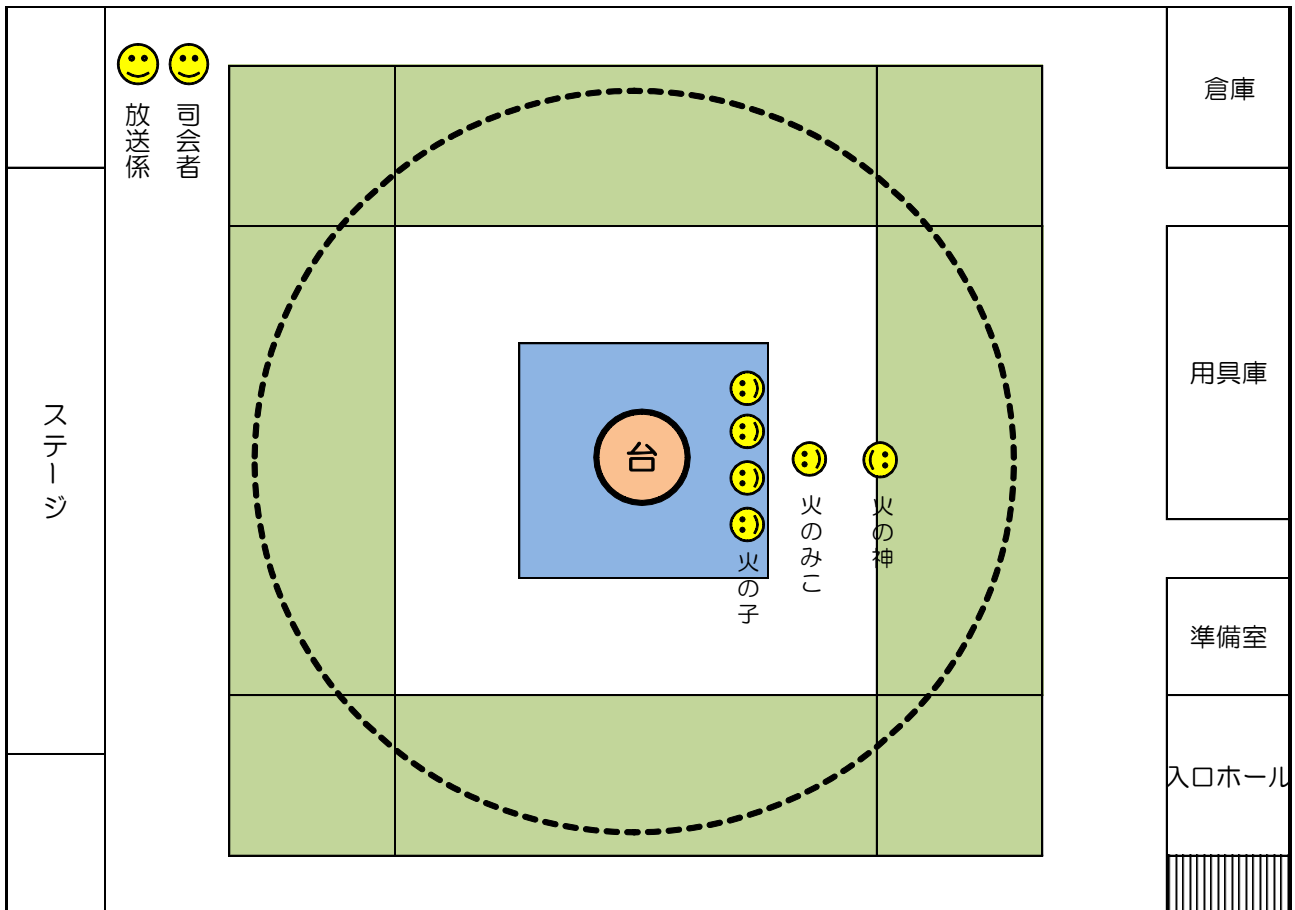
放送係… BGM スイッチON

- 聖火入場…火のみこ・火の神・火の子の順で入口から入場し（図2）、キャンドル台の周りを1周して並ぶ。（図3）

放送係… 入場が終了した時点でBGM スイッチOFF



〔図2〕



〔図3〕

司会者… 火のみこより火の神へと、聖火が渡されます。

み こ… 〇〇〇のみなさんのために、聖なる火を運んでまいりました。
みなさんの友情と謙助が深まりますよう心をこめて、この火を火の神へお渡しします。

○ 聖火献上…火のみこは火の神の前に進み出て、片膝を立ててロウソクを手渡す。
火を渡し終わったら、火の神の隣に移動する。

司会者… ただ今、火のみこにより、聖なる火が火の神ことどけられました。
この火をみなさんのお手元におとどけしたいと思います。
火の子のみなさんは一人ずつ火の神の前に進み出てください。

○ 分火1…火の子は、一人ずつ順に火の神の前に進み出て、火を分けてもらう。

(火の子1が火の神の前に進み出る)

火の神 … あなたには「規律」の火を与えます。

火の子1… 「規律」の火をいただきます。

(火の子1は元へ位置に戻り、火の子2が進み出る)

火の神 … あなたには「友愛」の火を与えます。

火の子2… 「友愛」の火をいただきます。

(火の子2は元へ位置に戻り、火の子3が進み出る)

火の神 … あなたには「協同」の火を与えます。

火の子3… 「協同」の火をいただきます。

(火の子3は元へ位置に戻り、火の子4が進み出る)

火の神 … あなたには「奉仕」の火を与えます。

火の子4… 「奉仕」の火をいただきます。

(火の子4は元へ位置に戻る)

司会者… 今、火の神より火の子へと、聖なる火が与えられました。
それでは、各班の代表者が列から一歩前へ出てください。
今から、火の子のみなさんが聖なる火をとどけてくださいます。
火を受け取った人は列に戻り、となりの人に火を分けてください。
火を分けてもらった人は、またとなりの人へと火を分けてください。
火の子のみなさん、お願いします。

放送系… BGM スイッチON

○ 分火2…火の子はちらばり、各班の班長に火を分ける。(図4)

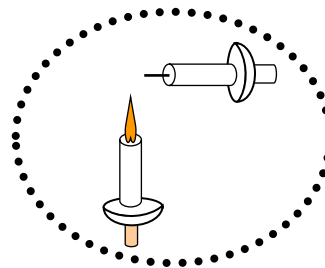
司会者… 火の子のみなさんは、聖なる火をとどけ終わったら、中央のキャンドル台の周りに集まり、キャンドル台のロウソクに火をともしてください。

○ キャンドル台点火…火の子は、キャンドル台の全てのロウソクに火をつける。(図4)
火をつけ終わったら元の位置に戻る。

放送系… 火の子が全員元の位置に戻った時点で、BGM スイッチOFF

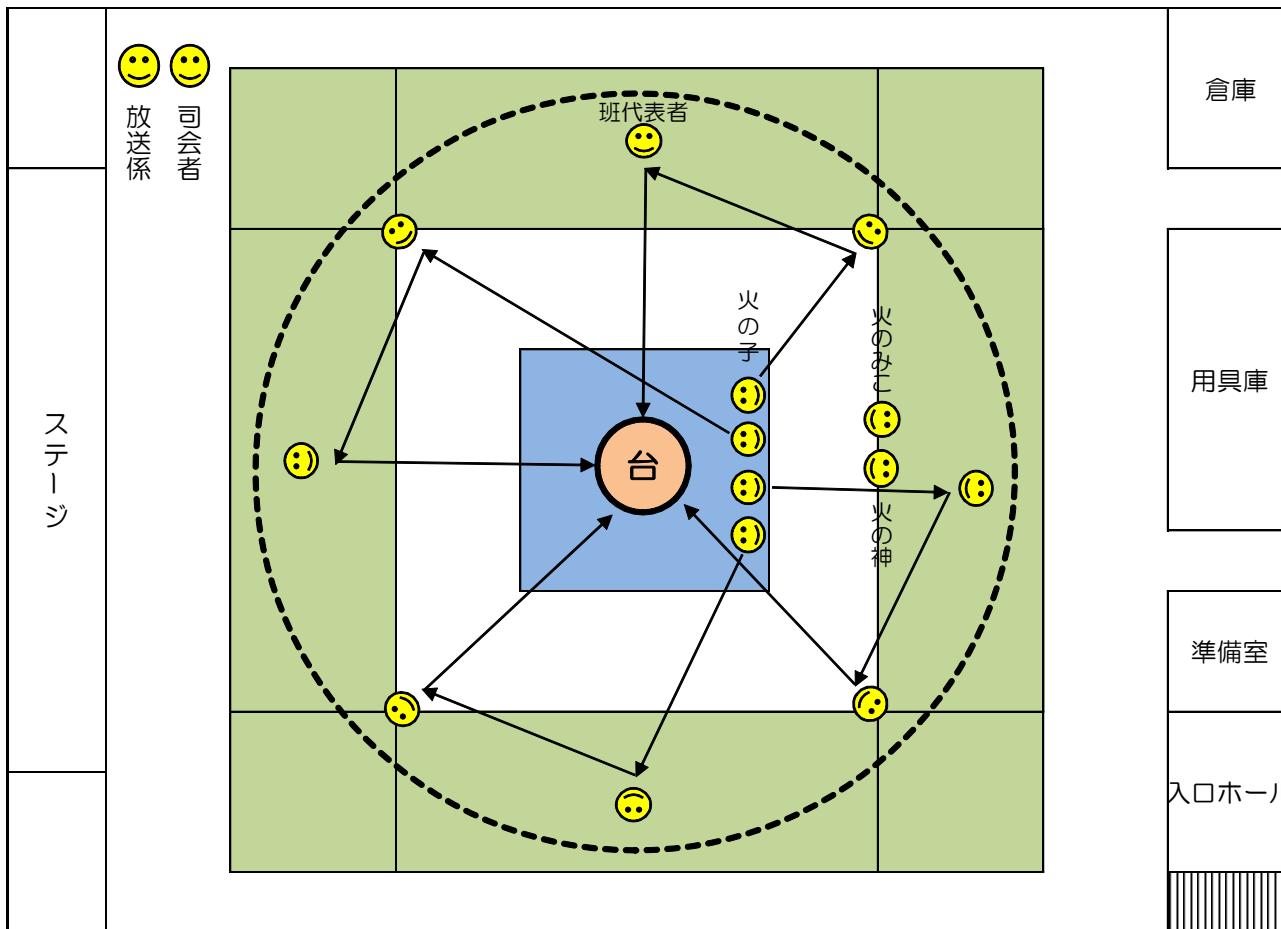
※「」内の言葉は団体の研修のねらいに沿ったものを適宜入れてください。

※ 火の子の人数が5名以上の場合は、言葉を追加してください。



①火を分火するときは、**火のついていない方のキャンドルを横にして**火をつける。

②キャンドル台のキャンドルへの点火の時は、**キャンドル台からロウソクを抜いて**、①と同様に火をつけて元の位



〔図4〕

司会者… 友情と信頼の火が、今みなさんの前にもされました。
ここで、参加者代表の方より、誓いの言葉をお願いします。
代表の方は、火の神の前に進み出てください。

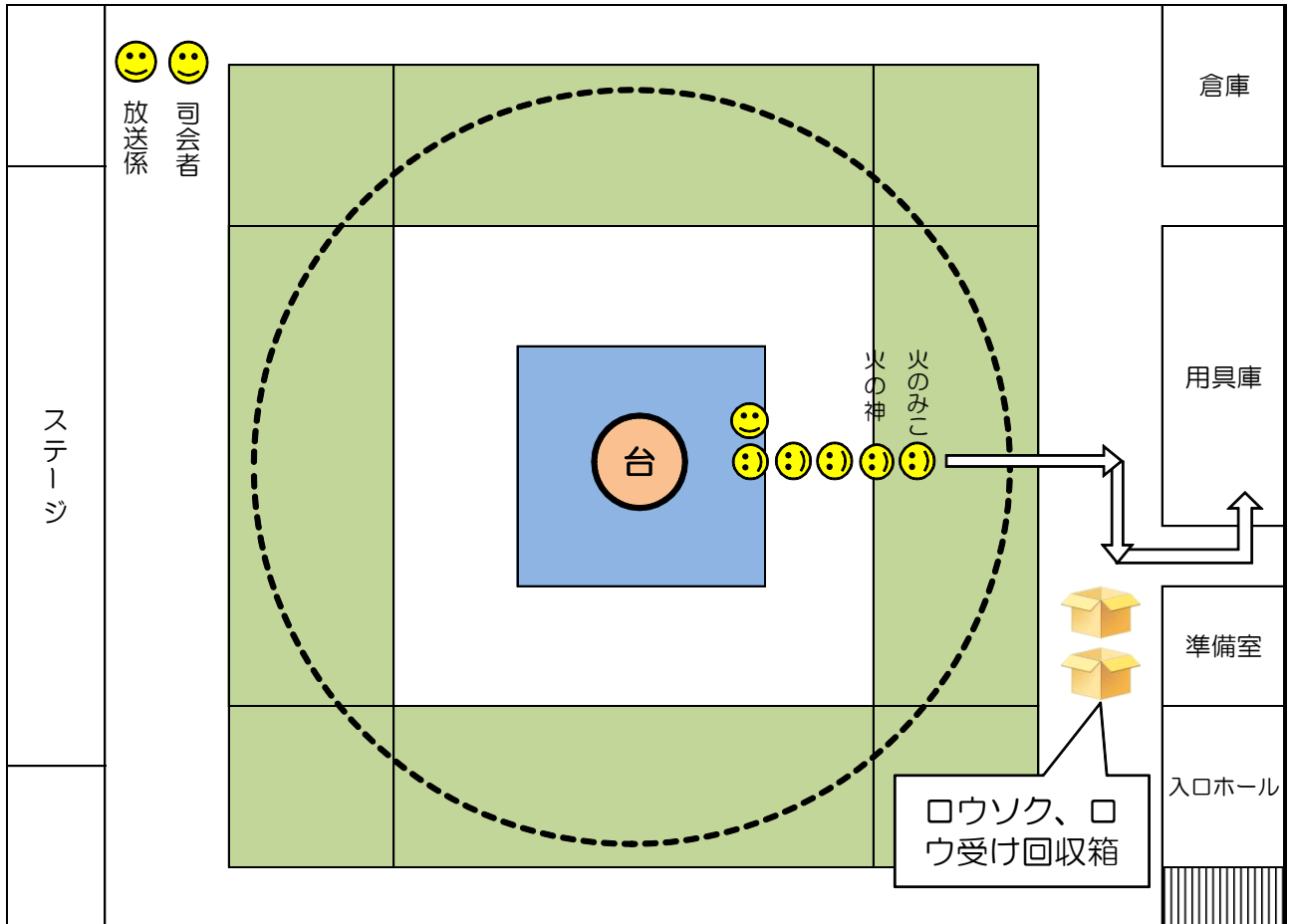
○ 誓いの言葉・代表者は火の神の前に進み出て誓いの言葉を述べ、終わったら列に戻る。

司会者… ありがとうございました。
つきまして、火の神よりお言葉をいただきます。

○ 火の神の言葉・研修の目的等をふまえた言葉を述べる。

司会者… ありがとうございました。
さて、火のみこ、火の神、火の子のみなさんが退場します。
みなさんで、静かに見送りましょう。

○ 退場・火のみこ、火の神、火の子の順で入ってきた場所へと退場する。(図5)



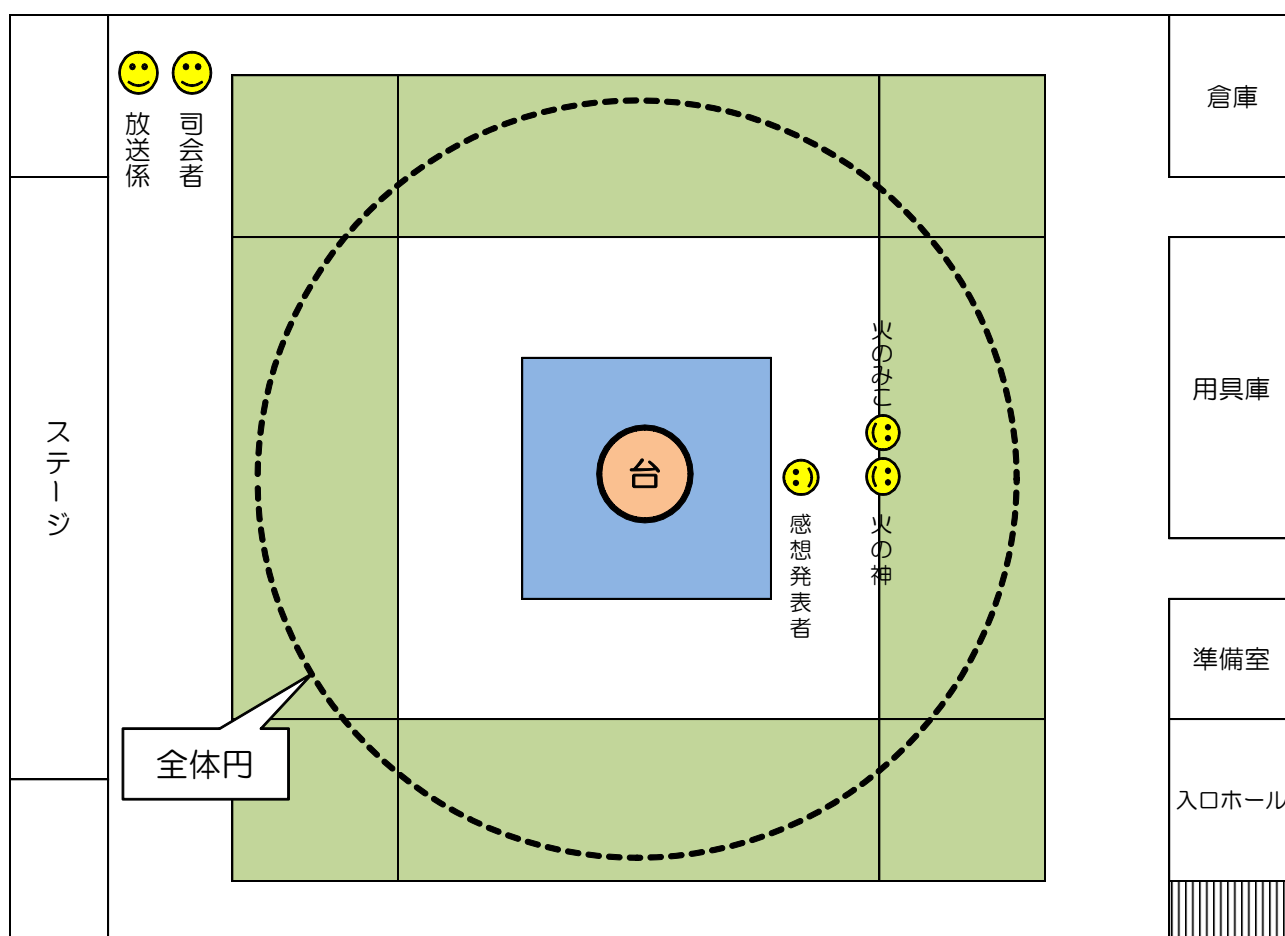
〔図5〕

司会者… それでは、手こしたキャンドルの火を吹き消してください。
 この後、第1部が終了したら、キャンドルとろう受けを別々にして、それぞれの箱に入れてください。
 これでキャンドルのついで、第1部を終わります。

- 各自のろうソクとろう受けをそれぞれの回収箱に入れる。
- 火のみこ、火の神、火の子は衣装を脱ぎ、第2部への参加準備をする。
- キャンドル台のキャンドルの火を消し、第2部の活動のじゃまにならない位置に移動させる。ただし、**第3部を実施する場合は、1本だけ火をつけたまま**にしておく。
- ブレーシートは、第2部の活動のじゃまにならない位置にたんで置く。
- フロアシートは、第2部の活動のじゃまになるようであれば、たんで隅に置く。じゃまにならないければ、敷いたままにしても可。

第2部：交歓（記述省）

第3部：送り火（省略可）



〔図6〕

- ブルーシートを敷き、キャンドル台を中央に移動し、全キャンドルに点火する。
- 火のみこは火を灯したキャンドルを持つ。
- 〔図6〕の隊形に整列を完了した時点で、全照明OFF。

司会者… これから第3部にうつります。
参加者代表の方に感想を発表していただきます。

- 感想発表…代表者は感想を述べ、終わったら列に戻る。

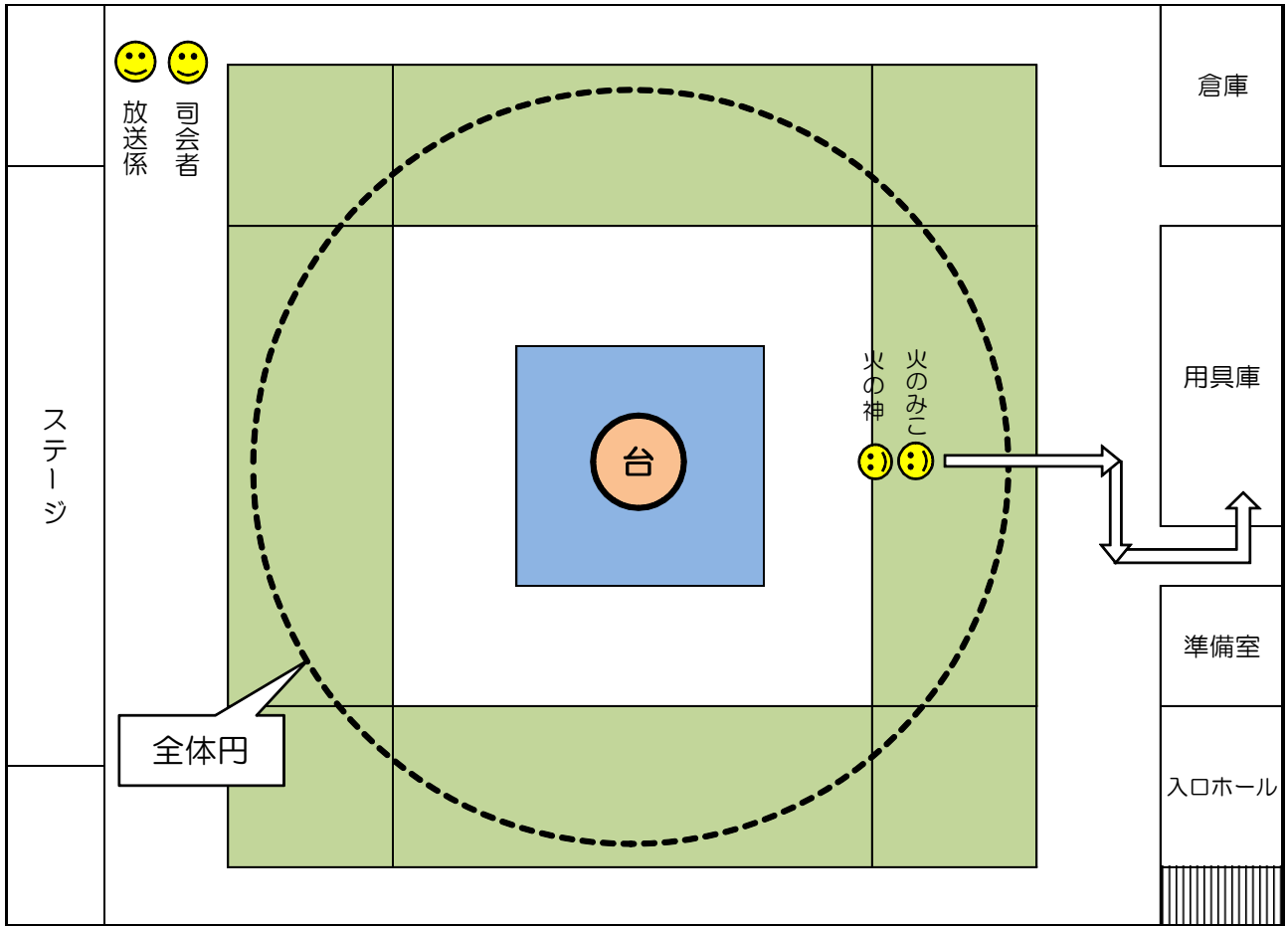
司会者… ありがとうございました。
つづいて、火の神の言葉をお願いいたします。

- 火の神の言葉…つどいのまとめにふさわしい言葉を述べる。

司会者… ありがとうございました。
それでは、聖火の退場です。静かに聖火を送りましょう。

放送係… BGM スイッチON

○ 聖火退場・火のみこ・火の神の順で退場する。(図7)



〔図7〕

放送系… 退場が終了した時点で、BGMスイッチOFF

司会者… 残念ですがキャンドルのつどいの終わりの時がやってきました。
みなさんの協力により、すばらしいキャンドルのつどいことができました。
きょう、わたしたちがともしたともしびの輪は、一生の思い出になることでしょう。
これで、キャンドルのつどいを終わります。

○ 全照明ON

4 代表の言葉列

誓いの言葉

「私たちは、この研修を通じて、〇〇〇〇ことをこの火に誓います。

- ここで得た友情を染める
- 希望と理想をもち、すばらしい未来の実願のために努力する
- たゆまない努力と信念をもって生きる
- 雄大なくじゅうの自然に学んだことをこれからの生活に生かす
- 素直な心をもち、健康で明るく生きる
- この火のように世の中を明るく照らす人になれるよう努力する 等

〇年〇月〇日 〇〇中学校 〇組 〇〇〇〇」

火の神の言葉

迎え火の言葉

火は遠い昔から、私たちに生きることの喜びや勇気を与えてくれました。

私たち人類は、この火をどんなに憧れたことでしょうか。人間の手で火を灯すことができたとき、その燃え上がる炎を見つめて、祖先はどんなに喜んででしょう。その喜びは、今でも私たちの魂の中に脈々と受け継がれているのです。

この燃える火を見つめてください。火を見つめていると身体が暖まるだけでなく、心をも沸き立たせる不思議な力が集まります。

私たちはこの火をかざしつつ、お互いの友情を深め、社会の灯火となろうではありませんか。

今宵、この聖なる火のもとで友情と親睦を深め合い、今後の活動をより大きく確かなものにするために、意義のあるキャンドルの集いを創り上げましょう。

送り火の言葉

1本のキャンドルの火は小さなものです。

しかし、この小さな火も、10本、20本と集まれば、明るい大きな炎になります。同じ目的に向かって、がっちりと手をとる灼熱の炎ともなるのです。一人一人ばらばらでは、決してこのような明るく力強い炎を見ることはできません。

人は一人で生きられるものではありません。家庭でも、学校でも、職場でも、多くの人と手をにぎり、助け合って、はじめてお互いが自己の生活をよりよく築き、社会に役立つ人となることができます。

今日みなさんの心にともされた灯火は、友情の火としていつまでも明るく輝き続けることでしょう。

これからの人生には楽しいことばかりではなく、苦しいこと、悲しいこと、辛いこと、いろいろな試練がみなさんを待ち受けています。そんな時には、今日のこの火と友の顔を思い浮かべ、友情の火を支えとして力強く生きぬいてください。

みなさんの健康と幸福とを願いつつ、このつどいを終わります。